

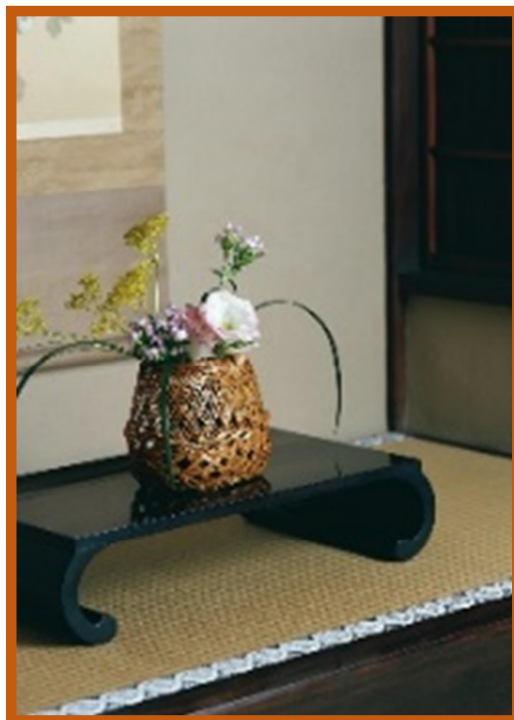


授業とマラソン

「はむらの授業指針」の「子供の視点 学ぶ意欲がわく」の第2項目は「学び方が分かる」です。本号ではその要諦、「学習のゴール（目標）とコース（流れ）が分かる。」について述べます。

教育委員会による学校訪問の授業観察で私たちが注目することの一つに、**「学習目標」と「学習の流れ」が板書等によって示されている**か、ということがあります。

授業における**「学習目標」と「学習の流れ」**は、マラソンの**「ゴール」と「コース」**に相当します。ランナーは、「ゴール」を目指して所定の「コース」を走ります。仮に「ゴール」と「コース」が示されなければ、「走りよう」も「走りがい」もなく、競技は「苦行」と化してしまうでしょう。



授業は子供に力を付ける営みです。子供はどのような力を付けるのかを**「学習目標」**によって認識します。力を付けるためにどのような学習過程をたどるのかは**「学習の流れ」**によって理解します。授業の終末には、**「学習目標」と「学習の流れ」**を踏まえて子供自らが振り返りを行い、次の学びへとつなぎます。

「学習目標」による自覚的な学びと、「学習の流れ」による見通しの立つ学び。これら二つの学びが、「教師の視点 力が付く」授業を根底から支えるのです。

ひらめきを試す

大リーガー 大谷翔平

休んでいる間でも「こういうふうにやってみようかな」とひらめいたりすることがあります。僕はそのままウエイトルーム、室内練習場へ行って、そのひらめきを試すことが多いですね。

出典：「大谷翔平は、こう考える」（桑原晃弥著 PHP文庫）

※ 大谷選手の野球に関する向上心と行動力に驚かされます。